

1. 活動状況

団体名	社団法人北海道建築士会 空知支部滝川分会青年部
対象事業	その他 活動センターが地域貢献活動と認めるもの
事業名	日本国北辺南洋住宅比較文化論の研究（滝川・名護交流研究 2000）
事業目的	北海道の住宅づくりは、寒地技術の確立により快適な室内環境を実現したが、定型化やライフスタイルの喪失、地域や家族間の関わりの希薄化という課題を抱えている。「住まう」の観念から住宅づくりを考え直したい。
実施期間	2000-2002（当初計画3カ年、随時延長）
実施活動内容	<p>北海道とは対極の天候・風土、歴史・文化を持つ沖縄名護の建築士会と、住宅史から生活文化、住宅づくりについての比較交流研究を目的とする。</p> <p>平成12年から3カ年計画で区切りの成果報告書の上程を目指しており、平成13年度においては調査交流事業、滝川における住文化シンポジウムの共催、アイヌの伝統的住宅であるチセの復元事業を実施した。</p> <p>今年度においては、これら3年に渡る活動のまとめとしての報告書、「北と南の住まいと暮らし」—日本国北辺南洋住宅比較文化論—を発刊し、併せてチセ復元作業をビデオ編集したCDを作成した。</p> <p>また、チセ復元をともに行った市民組織「チセ・ア・カラの会」と共同で、新たにアイヌの伝統的「丸木舟」の復元を今年度事業として完了し、現在、「チセ、丸木舟、復元の記録」カラー刷り製本を出版する編集作業を進めている。</p> <p>報告書「北と南の住まいと暮らし」を本年3月に発刊、建築士会会員、各団体・研究機関に配布し、多様な評価をいただいた。</p> <p>また、今年度の北海道建築士会青年の集い（釧路開催）においても、地域実践活動報告として発表した。建築士の仲間からあまり評価されなかったのが残念であるが、北と南の生活文化の比較研究を建築を背景として展開した視点は多くの方から賛同を得ており、今後とも活動を継続してまいりたい。</p>
今後の課題 将来計画等	これまでの活動の経過報告として製本が完成したが、そこから得た「住まい」に対する観念を、実際の住宅づくりに生かす交流研究活動を名護との間で継続実践してまいりたい。



2001.6.24 両端に三脚構造



2001.6.29 軸組にサクマ取り付け



2001.7.11 屋根葺き



2001.7.22 葺き仕上げ



2001.7.28



チセ完成写真